

第3回南砺市立学校のあり方検討委員会

令和2年11月27日(金)午後7時00分

南砺市役所福光庁舎 別館3階大ホール

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

- 第2回南砺市立学校のあり方検討委員会での委員からの主な意見について 資料1

3. 協議事項（意見交換）

- 将来の学校のあり方について 資料2
- 1) 5年ごとに検討委員会の設置について
 - 2) 2025年度頃の学校あり方（案）について
 - 3) 2045年度の義務教育学校とするあり方（案）について

4. 次回協議会の日程

- (1) 第4回検討委員会 令和2年 月

5. 閉会 副委員長あいさつ

令和2年度 南砺市立学校のあり方検討委員会 委員・事務局名簿

1. 委員 19人

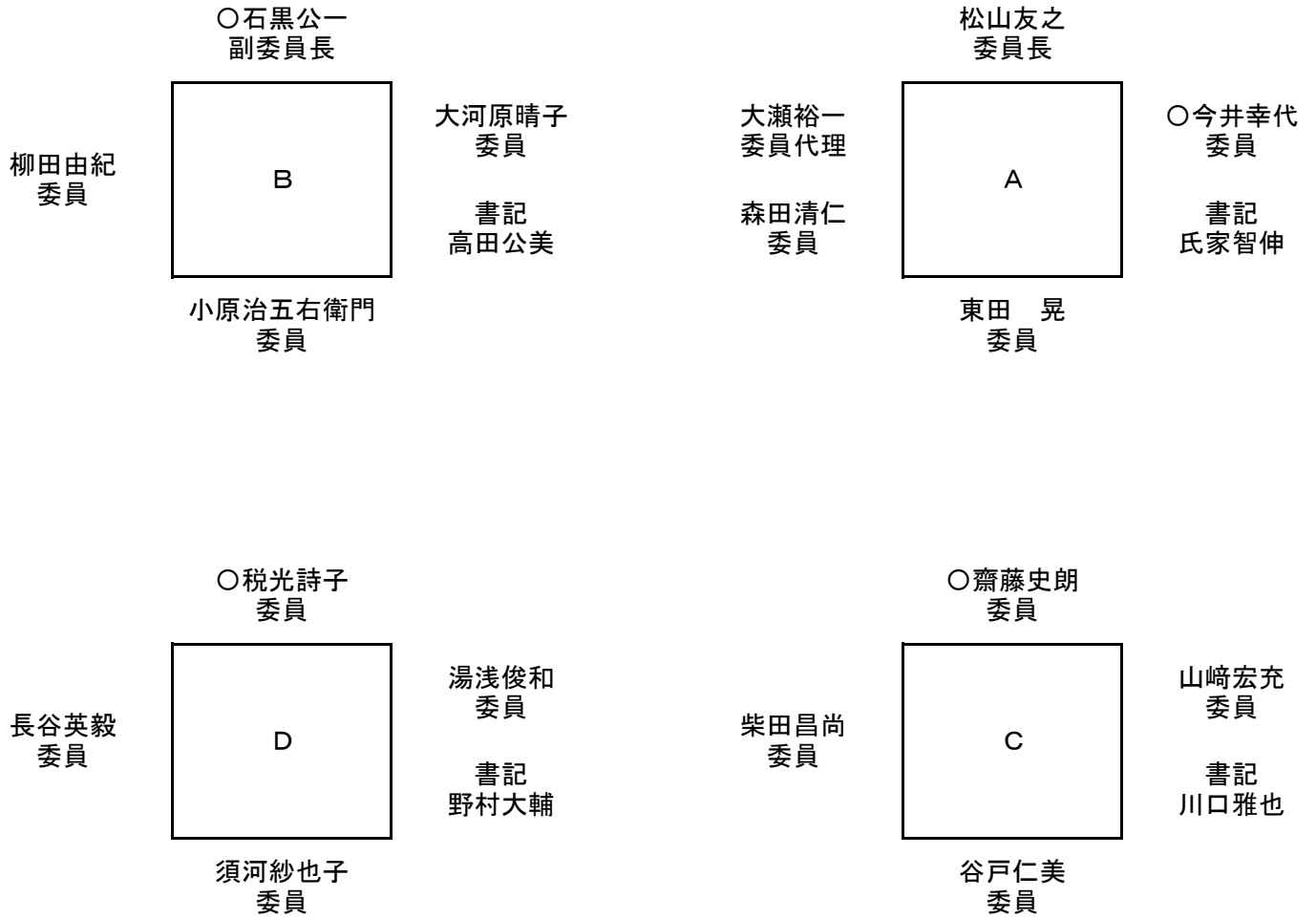
No.	役職	氏名	所属	備考
1	委員	松山 友之	学識経験者（富山国際大学子ども育成学部准教授）	委員長
2	委員	齋藤 史朗	学識経験者（元富山県西部教育事務所長）	
3	委員	税光 詩子	学識経験者（元南砺市教育委員）	
4	委員	野原 浩昭	小学校長会（井波小学校長）	欠席
5	委員	今井 幸代	中学校長会（井口中学校長）	
6	委員	谷戸 仁美	保育園長会（城端さくら保育園長）	
7	委員	越山 穂高	井波地域PTA代表	欠席
8	委員	山崎 宏充	井口地域PTA代表	
9	委員	長谷 英毅	利賀地域PTA代表	
10	委員	小原 治五右衛門	城端地域PTA代表	
11	委員	柴田 昌尚	福野地域PTA代表	
12	委員	湯浅 俊和	福光地域PTA代表	
13	委員	酒井 浩徳	平地地域PTA代表	代理 大瀬裕一
14	委員	東田 晃	上平地地域PTA代表	
15	委員	石黒 公一	南砺市PTA連絡協議会代表	副委員長
16	委員	柳田 由紀	公募委員	
17	委員	大河原 晴子	公募委員	
18	委員	森田 清仁	公募委員	
19	委員	須河 紗也子	公募委員	

2. 事務局

所属等	氏名	備考
教育長	松本 謙一	
教育部長	村上 紀道	
教育総務課長	氏家 智伸	
教育総務課 副参事	高田 公美	
教育総務課 主幹	川口 雅也	
教育総務課 副主幹（学務係長）	野村 大輔	

第3回南砺市立学校のあり方検討委員会 席次表

スクリーン



事務局

松本謙一
教育長

村上紀道
教育部長

入口

将来の学校のあり方の意見交換における進め方について

1. ねらい

南砺市内の各地域における文化や地域活動、児童生徒数など状況はそれぞれであることから、グループ内で各委員との意見交換を行い、将来の学校のあり方について、委員各自の考えをまとめていただく。

2. 進め方

①グループ内で意見交換を30分程度行う。進行は席次表の名前の前に○印が付いている委員が進める。



②グループとしての意見はまとめず、各委員との意見交換を行っていく上で、委員自身の考えをまとめる。なお、グループ内で教育委員会の方針（案）について質問等がある場合は、教育長及び教育部長が応答する。

3. 意見交換後

事務局にて各委員の考えを第4回の検討委員会までまとめ、第4回の検討委員会にて将来の学校のあり方について協議していただく。なお、今回の各委員の考え方などについて、各地域に戻った際に会合等で共有していただきたい。

令和2年10月30日開催の第2回検討委員会での各委員会からの主な意見

■学校のあり方の検討等について

委員長（学校のあり方の検討について）

令和10年度に伏木中学校も義務教育学校になる予定です。義務教育学校になる流れができているのかと思う。これは、知恵が必要な1つの大きな提案です。型がどこにもなく、多くの知恵で作っていく段階だと思う。5年後のあり方もありますが、知恵を出し合って、新しいものを作っていかなければならないというピンチのように思う。しかし、このピンチをチャンスに変えるような提案がしていきたいと思う。

副委員長（学校のあり方の検討について）

「地域」という言葉に引っかかる。南砺市商工会青年部は、旧8町村の文化があるが、少しずつまとまりができてきた。小中一貫校は悪い話ではないと思うが、大学生まで考えれば、高校生になると多くは南砺市から出ることになる。中学生までは南砺市の学びがあればいいと思う。

委員B（学校のあり方の検討について）

福野地域は他の地域とは問題点が違うと思うが、福野地域のあり方は素晴らしいです。しかし、問題点があるとすれば、町おこしやまちづくりだと思う。メリット・デメリットがあるため、現段階で30年後を決めるのではなく、10年後、20年後とまた考え直してもいいのではないかと思う。また、各地域でも町おこしやまちづくり等を考えられておられるので、発表会をしてもよいと思う。

委員J（学校のあり方の検討について）

学校の統合や再編は、デリケートな話になると思う。10年程前に、平・上平地域の小中学校が統合した。子供たちのことを第一に考えるべきはずが、大人たちの損得感情で決まることになりかねない。現在、立派な小、中学校の校舎があるが、もう少しやり方があったと思う。まず、全てにおいて子供たちがどのような環境でどのような教育を受けることが大事だと思う。みなさんと一生懸命考えていきたい。

委員L（学校のあり方の検討について）

今日のような検討会を毎月と言わず毎日のように行い、雰囲気を作ることが大事だと思います。子供の人数が減っており、PTAの人数も減っている。その中で、8町村が歩み寄る良い機会だと思う。子供たちにとって、何が良いのか、地域のつながりを考えたときに統合により地域が衰退してしまうなど考えていく必要がある。

委員F（学校のあり方の検討、学力について）

前回、校舎の耐久は今後20年程余裕があるという話があった。20年後の子供たちは、今の教室で勉強していないと思う。また、新校舎を建てて全部一緒にすると20年以上かかる。子供たちに良い環境を与えるためには、素早い動きが必要になる。来年度、井口地域義務教育学校が開校する。他の地域に比べ、井口地域だけが学力が上がってしまうと、他の地域には満足感が得られないと思う。南砺市全体を平等にしてもらい、南砺市全体の学力が上がればよいと思う。

■学校のあり方等について

委員H（学校のあり方について）

これまで、様々な規模の学校を経験してきた中で、地域や保護者の方、学校、子供たちが1つになっていた。学校の規模はそれぞれ違うが、子供たち一人ひとりの目を輝かせるのは、地域、保護者、学校であることは揺るぎがない。「教育」の市である南砺市の学校のレベルをあげるため、地域の特徴のある南砺市の教育を展開していきたい。それぞれの地域の文化がある学校を残すことには賛成です。

委員Q（学校のあり方について）

学校は、社会に出るための「練習の場」だと思う。子供たちが社会に出て、自分で生き甲斐や役割を見つけて生きていけるような基礎を学校生活の中で身につけてほしい。そのためには、できるだけ人数の多い学校で育つ環境があった方がいいと思う。小規模校の良さもあるが、どのような大人になったらいいのか、南砺市としてどのような大人を育てたいか検討すれば良いと思う。

委員I（学校のあり方、地域の活力について）

昭和50年頃の城端中学校は多い学年で200人程在籍していた。現在、半分以下の50人程かと思う。これまでの学校教育を振り返るのではなく、今後どうしていくのか、過去にとらわれないことが求められる。地域に学校があることは、子供たちや地域の方にとって非常に大切なことです。学校がなくなると、コミュニティも崩壊していく。義務教育学校のような色々な方法を使って、地域に学校を残していく必要がある。委員の考え方も違うので、様々な考えを出し合うことで、よりよい方法を見つけていければと思う。

委員M（学校のあり方、地域の文化について）

学校の機能を考えたときに、子供たちの発達段階と学校の規模は関連している。小学校は小規模校できめ細やかな教育、中学校から大学に進むにつれて、生徒会活動や部活動ができるようになることが、子供たちにとって1番適切な教育だと思う。南砺市が義務教育学校化して校数を減らすことは妥当だと考える。義務教育学校も小規模になった際は、学校の機能をキープするために、新たに統合も必要になると思う。また、地域の教育を考えたときに、同じ学校でも獅子舞がある地域、里芋掘りをする地域と様々な文化がある学校はどこにでもある。学校を統合しても、最終的に「南砺市は1つ」という考えをもっていけば、同じ学校で違う文化をもっていても何も問題はない。それぞれの文化を大事にしなが、南砺は1つ」という考えをもっていかなければならないと思う。

委員N（学校のあり方、区域外入学について）

8町村に学校を残すことが、軋轢がなく良い方法であると思う。しかし、この方法でいつまで保てるか分からない。子供たちに寄り添った考えで、統合する方法は今から考える必要があると思う。また、部活動についても南砺市全体を1つにする等の方法もあると聞いた。学習も部活動も選択肢が多い方が子供たちのためになると思う。

委員P（学校のあり方、区域外入学について）

8町村に学校を残すことに賛成です。しかし、その地域の学校に通う子供たちがいなければ難しいと思う。10年後の上平地域には、子供たちがいないと想定される。やはり、子供たちがいないのであれば、統合も考えられる。市内の行きたい学校に通うことができる制度があってもいいと思う。

■小規模校等について

委員 A（小規模校について）

来年度から井口地域義務教育学校は開校する。井口地域の学校がどうあるべきかを地域で検討したときに、小規模の良さを生かすため義務教育学校という形にした。この義務教育学校が地域おこしになればと思う。県内から井口地域の教育の良さを知ってもらい、この義務教育学校へ呼び込みたい。

委員 D（小規模校について）

利賀地域の子供たちは少ないため、一人ひとりの発言する機会も多くなるが、体育や音楽の授業にチームが組めない等があり可哀想だと思う。しかし、小中合同での運動会等では、一人ひとりの役割がすごく大きく、子供たちが成長し学んでいる。そこに地域の方々の協力もあり、1つの学校として運用しています。来年度から山村留学が始まり、9人の子供たちが一緒に学習する予定であり、良い結果になれば、全国から子供たちが来るような、1つの学校のあり方になれば良いと思う。

委員 G（小規模校、地域の文化について）

利賀地域に小中学校を残し続けることは、南砺市にとって荷物になると思うが、保育園も学校も残してほしい。学校がないと、やはり人が来てくれない。人数が少ないなりに、良いことがあることを実感している。また、地域の隔たりをなくし、学校を1つにすれば良いという意見があったが、子供たちが、自分の地域の良さを分らないと、南砺市全体の良さも分らないと思う。保育園、小学校でその地域の良さを伝えることが必要だと思う。

委員 K（小規模校、地域の文化について）

利賀地域の子供たちは少ないが、一人ひとりの役割がしっかりある。地域の担う一員として、しっかり教育ができていて、素晴らしいと思う。地域の中にも、子供たちの成長を地域で見守っていける環境が整っている。南砺市を「ふるさと」と考えることは貴重だと思う。南砺市は8つの地域があって、山間部や町部などに様々な文化があり、多様性があることが「南砺市」だと思う。地域の文化があり、学校同士が交流することで、南砺市の多様性が把握できると思う。学校が統合することで、南砺市の豊かな自然や文化が薄れていくことを危惧します。

■区域外入学等について

委員 O（区域外入学について）

来年度から井口小中学校は義務教育学校になる。子供たちが行きたい学校に通う制度が今後できればいいと思う。部活動の問題も今後出てくるので、今日のような会で協議していきたいと思う。

委員 C（区域外入学、地域の文化について）

私は井波地域出身で「井波愛」を持っている。しかし、この「井波愛」を「南砺愛」に変えていかなければならないと思う。南砺市の学校には、子供に寄り添った考え、子供優先を願っている。現在、コロナ禍ということもあり、子供たちは制限されているが、様々な選択肢、挑戦を与え続けていきたいと思う。

■部活動について

委員 E（部活動について）

高校生まで部活動中心の生活を送っていた。部活動の問題に対しては、5年後ではなく、できるだけ早く解決すべきであると思う。南砺市で教育を受けられたことは先生方の力が大きく、先生にとっても働きやすい環境づくりも必要である。

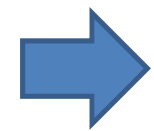
南砺市立小・中学校のあり方検討(教育委員会の案)

将来に向けた学校教育の役割 「地域の人たちとの交流をとおして人間性を育む」

参考:南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会における協議
 小学校 9校 → 2045年度には 4校
 中学校 8校 → 2045年度には 2校

学校設置の基本的な考え方

- ・市内の8地域(旧町村)の文化を大切にすることで、学校教育を機能させる
- ・8中学校区に学校を残して、地域と一体となった学校運営を行う
- ・多くの児童生徒が徒歩と自転車で通学することが可能な学校配置とする(子どもと家庭の通学にかかる負担を最小限にとどめる)



南砺市は

○安心して暮らせる地域 ⇒ ◎移住・定住・Uターンの促進
 (若者が家を建てられる地域) (人口ビジョンの目標達成に向けて)

小・中学校再編と公共施設再編計画

年次	2020年度(R2)	2021年度(R3)	2025年度(R7)頃までに	2030年度(R☆)頃から随時	2045年度(R27)
A) 学校数	【17校】 小学校9校 中学校8校	【16校】 小学校8校 …(△1校:井口小) 中学校7校 …(△1校:井口中) 義務教育学校1校 …(+1校:井口)	【14校】 小学校6校 …(△3校:井口小、利賀小、福光南部小) 中学校6校 …(△2校:井口中、利賀中) 義務教育学校2校 …(+2校:井口、利賀)	【14校】⇒【●●校】 ◆保護者や地域住民が望めば、 小学校4校、中学校2校 への再編統合も検討する	【8校】 義務教育学校8校 …<井波、井口、利賀、城端、平・上平、福野、福光、吉江> ◆2060年度には ・児童生徒数によっては、小規模校を統合再編する【7校～6校に】
小中一貫教育(9年間)の推進 ・ 中学校の部活動改革					
B) 学校再編	第2次南砺市公共施設再編計画(平成28年3月)における基本的な考え方 ・学校は、地域の中核的な施設であり、8地域それぞれで維持。 ・しかしながら、適正規模を下回れば統合の必要があると考えられる。	①井口地域義務教育学校の開校 第2次南砺市公共施設再編計画(平成28年3月)における基本的な考え方 ・井口小、井口中…短期に小中一貫校の検討 ・利賀小、利賀中…短期に小中一貫校の検討 福光南部小…複式学級が2学級以上となった場合、統合を検討	②利賀地域義務教育学校の開校 ③福光南部小学校の統合 (※複式学級になった時点で、福光中部小と福光東部小に統合する) ⇒すべての小学校、中学校で、 小学校1校対中学校1校の「小中一貫教育」体制が整う (※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)	④小中学校区単位で、 小学校・中学校の全学年が単級(1学年1クラス)になった学校から、義務教育学校へ移行する (※福光地域の福光中部小・福光中と福光東部小・吉江中については、義務教育学校ではなく、小学校2校を1校に、中学校2校を1校に統合することも選択肢とする) (※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)	⑤全ての中学校区で義務教育学校とする (※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)
C) 公共施設再編		①井口小学校、井口中学校における減築	②利賀小・利賀中の義務教育学校への移行にあわせて、未使用部分の解体 ③福光南部小の学校校舎を解体もしくは用途変更	④義務教育学校は、各校区の小学校もしくは中学校の校舎を利用して設置することから、 小学校1校+中学校1校=2校が、義務教育学校1校になる。未使用の学校校舎を解体もしくは用途変更	◆2060年度には 小規模校を統合再編した場合は、未使用の学校校舎を解体もしくは用途変更
D) 目標人口等	◆2020年 南砺市人口ビジョン目標人口 48,208人 社人研推計人口 48,028人 (差:180人)		◆2025年 南砺市人口ビジョン目標人口 45,422人 社人研推計人口 44,627人 (差:795人)	◆2035年 南砺市人口ビジョン目標人口 40,122人 社人研推計人口 37,833人 (差:2,289人)	◆2045年 南砺市人口ビジョン目標人口 35,178人 社人研推計人口 31,017人 (差:4,161人)
E) 南砺市立学校のあり方検討委員会の意見を踏まえての修正点等	変更なし	変更なし	A) 学校数: 変更なし B) 学校再編: ②、③ 変更なし B) 学校再編追記: 「(※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)」を追記 C) 変更なし	A) 学校数一部削除: 「小学校4校、中学校2校への」を削除 B) 学校再編: ④ 変更なし B) 学校再編追記: 「(※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)」を追記 C) 変更なし	A) 学校数: 変更なし B) 学校再編: ⑤ 変更なし B) 学校再編追記: 「(※学校区外への区域外入学について、 地域が望む場合は検討する)」を追記 C) 変更なし
5年ごとに南砺市立学校のあり方検討委員会を設置し、将来の小中学校のあり方を再検討する。					